

第87回 東京箱根間往復大学駅伝競走

往路 1月2日 [日] ・ 復路 1月3日 [月]

9年連続
12回目出場

これまでの実績

第70回	総合16位	(往路18位・復路15位)
第71回	総合12位	(往路12位・復路12位)
第75回	総合13位	(往路15位・復路11位)
第79回	総合10位	(往路11位・復路6位)
第80回	総合11位	(往路8位・復路13位)
第81回	総合9位	(往路11位・復路9位)
第82回	総合17位	(往路18位・復路8位)
第83回	総合13位	(往路6位・復路15位)
第84回	総合3位	(往路5位・復路3位)
第85回	総合5位	(往路4位・復路13位)
第86回	総合13位	(往路16位・復路8位)

87th Hakone Ekiden Course Guide

10区間 217.9km
往路 108.0km
復路 109.9km



- 禁止事項**
- 小旗の使用
 - スタート・ゴール・中継所の前後100m以内での応援用具の使用
 - 応援用具を沿道にくくりつけること
 - 車道での応援
 - 歩道での歩行者の妨害

**マナーを守って
応援しましょう!**
ゴミは捨てずに必ず
持ち帰りましょう。

初心に戻り、ゼロから再出発。

2010年の箱根駅伝が終わり、新チームになってからも、シード権を失った雰囲気拭えない状況で大会に臨みました。予選会経験者が、4年生しかいないという状況は正直不安でした。予選会の苦しさを知っている最上級生が、危機感を覚えて、チームを立て直した感じです。全日本大学駅伝の予選会で惨敗したので、夏合宿はこの悔しさをバネに順調に練習をこなすことが出来ました。練習は順調でありながらも、結果が出ないため「自信」がなかったですね。しかし、今の実力を発揮できれば、予選会は通過できると選手に言い聞かせてきました。公式タイムの良い大学が、落選した大会でもあったので、合格点の予選会だったと思います。私は、「指導者」でもあり「教育者」でもあります。目的意識をしっかりと持たせて、練習以外の生活もしっかり教えて行きたいと思います。選手勧誘が成功している大学に比べて、私たちの大学は一般受験者でも、競える選手になれるのです。最後の学年では箱根駅伝を目指せるまでいき、区間上位で走った学生も多く見てきています。残り一ヶ月をきりましたが、箱根駅伝まで故障者(怪我人)0人で迎えられるように、関係者含め選手一丸となっていきます。



陸上競技部 監督 川崎 勇二

※この対談の続きは、中央学院大学箱根駅伝特設サイトにて公開します。

ゼロからの
再出発!

ROAD TO HAKONE 2011

9年連続・12回目出場
「箱根駅伝」
—— 予選会&直前レポート ——



頑張れ!!

Go!!!!!!

中央学院大学

第87回 東京箱根間往復大学駅伝競走 10月16日[土] 国営昭和記念公園(東京都立川市)

10/16(土)立川駐屯地スタート→昭和記念公園(20km)にて、関東学連加盟36大学による「箱根駅伝予選会」が行われた。上位9大学が、来年行われる本戦に出場する。晴天のもと、予想を上回る気温の中、午前9時に号砲がなった。本学は、今年の箱根駅伝で逃したシード権を掴む為に、夏の合宿から厳しい練習をこなしてきた。絶対的エース不在の中で、意地を見せたのは、精神的支柱の「最終学年・4年生」であった。

12人走破した中で、4年生の6人が、学内10番以内に入った事は、総合力で挑む本学にとって、大きな収穫でもあったと千葉コーチは語った。

スタート前に、川崎勇二監督から、当初設定していたタイムより、暑さ対策で入りの5kmを慎重に入る事を指示されていたのだが、予定より「10秒」上回ってしまった。その時を振り返って話す川崎勇二監督は、「失敗したと思いました。」と危機感を感じていた。コース上を監督と一緒に共にした千葉コーチも不安を隠せずにいた。

昭和記念公園内の大型ビジョンで、逐一通過順位を放映している情報を、尾上コーチが、コース上で指示を出している川崎監督・千葉コーチに連絡をしているが、報告順位が本当かどうか疑うくらいに、チームのタイムは悪かった。しかし、タイムが悪いのは他のチームも一緒であった。昭和記念公園内に設置されてある大型ビジョンの周りには、大学関係者含め駅伝ファンで覆い尽くされていた。順当に行けば通過は間違いないが、本戦で戦う為にはトップ通過を目標に掲げていたが、消化不良の「4位」でアナウンスされた。

この予選会は、関東インカレポイント制が導入される大会でもあり、本学は6位以下になったら勝ち目がないので、安堵の気持ちと「戦国・箱根駅伝」の怖さも改めて思い知らされる結果であった。大会終了後の川崎勇二監督は、「この結果を真摯に捉えてほしい」と決して満足ではない事を、選手全員に再確認させた。

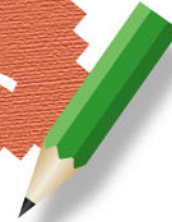
予選会結果

- 1位 拓殖大学
- 2位 國學院大學
- 3位 帝京大学
- 4位 中央学院大学
- 5位 上武大学
- 6位 日本大学
- 7位 東海大学
- 8位 神奈川大学
- 9位 専修大学
- 以上本戦出場
- 10位 法政大学
- 11位 大東文化大学
- 12位 亜細亜大学
- 13位 順天堂大学
- 14位 国士舘大学
- 15位 松蔭大学
- ...
- 予選会参加36大学



予選会
納得のいかない「4位」通過

「箱根駅伝」 直前レポート



富津最終強化合宿 11月26日[金]～12月2日[木]

箱根駅伝まで、残り40日を切った。本学は、最終の強化合宿として最後の走り込みを行った。参加選手は13名。スピード練習と距離走を兼ね備えた、最後のチーム強化でもある。11/27(土)は、朝練習に集団ジョギング、午前11時15分からは「5000m×3本」のレースペースの確認と、箱根駅伝コースを頭に入れた内容である。距離にすれば「15km」になるが、当日は「20km」以上ある距離になるので、如何にして残りの「5km」まで余裕を持ちながら走ることが出来るか?を各選手に植え付けさせた。設定タイムは、個人の能力に応じたタイムで、4チームに分散した。15分10秒前後の設定タイムは、大会当日のレース展開で必ず守らなければならないペースである。イメージ通りの内容で、選手は練習をこなしたが、川崎監督曰く、「予定通りの内容では、正直良い感触は掴めません。予定以上の走りが出来てこそチームの底上げが出来るのです。」また「箱根駅伝は、1人で走るケースが多々あります。集団で走れるのは当たり前です。身体にペース感覚を身につけてこそ、どんなレース展開になっても力が発揮できるのです。」と気を抜かない指導は、長年こだわり続けている課題でもある。

練習後は、補強トレーニングを全員で行った。「本学は、文系大学です。日々机に向かって勉強しているので、どうしても強靱な「脚」を生活の中では作れません。必ず行っていることです、もちろん毎日の練習から行っていることですが・・・。」体育大学出身の指導者ならではの、ちょっとした工夫が練習内容にも現れている。



“箱根駅伝に出たい”
この思いを持って入学した「主務」の
現在の気持ちを取材してみた。

Close-Up

嬉し涙で終える 「箱根駅伝」にしたい。

陸上競技部主務 殿島 竜介

私は、高校時代に選手生活を終える予定でしたが、両親に「夢を追いかけてなさい」と言われ、中央学院大学に入学しました。しかし、思ったより記録も伸び悩んで、先輩から「マネージャー」の道を勧められました。しかし、箱根駅伝を走る夢を捨てきれなく、1週間悩みました。自分の気持ちの整理はついていたのですが、両親を説得する事が大変でした。川崎監督も、チーム事情だけを考へての判断ではなく、両親にちゃんと説明してくれましたので、迷いは無く主務の責務を全うしています。今のチームは、キャプテンが故障(怪我)から漸く復帰しているので、チームのモチベーションを保つ為に、色々悩みを聞いて走り集中出来る環境を作っています。今年の大会終了後に、先輩が嬉し涙を流していました。私は、順位はどうであれ、最高の仲間と一緒に「嬉し涙」を流したいと思います。そして残り少ない学生生活を悔いのないように送りたいと思います。

20年間支えている 「第二の合宿所」

横田屋旅館

中央学院大学が「箱根駅伝」にまだ出場していないころから受け入れを行っている「横田屋旅館」。このシーズンになると、この宿舎は選手にとって気持ちが集中できる場所である。大会直前の12/30まで最終調整を行っているところは、精神的に安心できると監督以下、選手は口を揃えて言う。「富津の新鮮なお魚料理や、栄養のある食事を提供しています。大会前になると、一般のお客様の予約を控えるなど、居心地が良い環境を作るのが一番のサポートですね。」と店主は語る。とにかく食べ盛りの学生には、ボリュームだけではなく、バランスのとれた料理でもてなす女将は、「とにかく息子のように可愛いですね。結果が良い事はもちろんですが、一生懸命悔いのない走りを期待しています。大会終了後は、走り終わった選手に会うために、毎年東京に行っています。」中央学院大学の強さの秘訣は、こんなところにもある。

